

終戦八十年の慰霊の誠を捧ぐ お盆花供養慰霊祭



大和の光

9月号

《発行所》

大和教団
仙台市青葉区錦町2-4-24
大和教団本庁
電話 (代) 022-261-2525番
振替 仙台 02220-3-45512
発行人 大和教団 定価50円



神紋

八咫鏡と太陽を
かたどったもの
で、国家の隆昌
と世界の共存共
栄を意味してお
ります。

霊言
人間は働くために生まれて
きている。
身体を惜しむのは、人間を
やめるのと同じである。
(大和神典第三之二五三言)

八月三日にて、三山登拝行も一人の大事なく終了。教師、職員、役員の方々に心より感謝申し上げたい。開祖様が湯殿山で修行をさせて頂いてから九十七周年の歴史を越し、令和十年には百周年を迎える。これからの三年で改めて三山萬人講の組織を構築せねばと信念するものである。

令和九年には、立教七十周年となる。大元の教団の組織を修理固成なし、新生大和の信仰組織を構築すべく、その歩を、一歩踏み出さむとして、「御命持神法教傳セミナー」をこの八月二十三日、二十四日の一夜二日をもって開催をした。

大和開教神であられる大國主大神の開教神宣の御教えに基づく神法教傳会ではある。

全人類・世界国家の救済を願う大和神法教の真義をもって、更には天津大霊御手神治神法の奇麗なる神術をもって衆人の浄霊と身心の健康心を図り、夫々の身に寄りし御霊をも浄めなす秘術をもってである。これまでの麻加持、手加持神法とは、次元の異なる神術となる。

二十三日は九時三十分より十三時まで、大和教団の根本を解き心に深く刻みしものとなった。世間でいう宗教とは異次元の世界にある天地自然の宇宙法則、真理を学び修め、実践する教えの庭であることを。

大和信仰の誇りと勇気をもって、声を大にして道を広めるべく、善導奉謝行の精進をもって、全人類、世界国家を救うべくの大道を歩むを申し合わせた。その後、神法実修をなし、教導す。

翌日は、私の身体をもって、受講者の御手神治を施術させた。一人は前より、一人は後より施術をさせ、その神威を体感す。全員がそれなりの神威を発願するものとなった。今後の善導救済の大きな力となるであろう。善導奉謝行なるに、人よりの御礼等の金銭は固く辞することを厳命させて頂いた。大神様の大愛をもってお願い頂かねばならない。

受講者には五十日間での三つの行を達成すべく宿題を与えた。必ずや成就するの覚悟をもって、力強い奉仕をして頂きたいものと乞い希う次第である。

この八月もしつかり御命を全うさせて頂いていることに感謝ではある。



特別のお救いも、この月は九日間の奉行となった。

年毎の祭事では、お盆花慰霊祭が志願教務総長外祭員にて斎行された。神座は美しい花飾りがなされ、御霊も、参列者も心を慰(なご)め、和(なご)まれたであろうことを。また、本年は終戦八十周年のこともあり、靖国神社に奉斎される英霊を始め、全戦没者の御霊の慰霊祭も斎行された。祝詞も熊川祭儀部次長と共に心を熱く奉製させて頂いた。

戦後八十年は、私には一汐の想いがある。私は昭和二十年六月十九日の生れで、八月十五日の約二カ月前であった。日本全土がB29から焼夷弾が落とされ焼け野原となった。更に八月六日は広島に、九日は長崎に

原爆が投下された。何十万人もの人が一瞬にして命を奪われた。悪魔の悪業の極みの行為と私は断じている。欧米列強国は弱き国を奪うだけ奪い、勝手な理屈をもって正義を企てる人種である。殊にロシアは約束事も平気で破る権力者、為政者が君臨しているをみる。大和の心をもつ私たち民族とは非なるものであるを覚らねばならない。

八月二十三日の産経新聞に、「台湾・元日本人の戦後八十年・受け継がれる大和魂・嘉農の生徒、敗戦知り涙流し土下座」の見出しがあった。文中の一文を記める。

昨年、台湾の「棒球名人堂」(野球殿堂)は、嘉農監督の近藤兵太郎を満票で選出した。台湾野球界への貢献が認められたのだ。

近藤が晩年に監督を務めた愛媛・新田高の教え子、亀田健(八十九)は、「近藤先生は台湾時代のことは多くを語らず、嘉農の準優勝の話も映画化まで全く知らなかった」と話す。ただ近藤は嘉農時代の写真に選手一人一人の名前をびっしりと記録していたとの証言もある。台湾への思いのひだは、もう知る由もない。祭は、自らの人生に影響を与えた「近藤精神」についてこう語る。

「自分を顧みず国家のため、他人のために尽くす。利己主義を捨てなければね。台湾人は大和魂を受け継ぎ、その精神がずっと流れている。」

私はこの台湾前総統の言葉に日本人が忘れ失いつつある大和魂を大切にしている一文を読み、涙こぼるるを禁じえずであった。我が大和魂は全人類の宝であることを。

吾が御教えに、

「大和の精神は

全人類の心のふるさとであり

依りどころである」

を心に刻むものとなった。

令和七年八月二十六日

教主 秀胤

祖霊殿祖霊年祭 お盆花供養慰霊祭 終戦八十年慰霊祭 日蓮宗関縁浄霊安鎮祭



斎主教務総長による祝詞奏上

終戦八十年慰霊祭詞、日蓮宗関縁浄霊安鎮祭詞が斎主教務総長により厳かに奏上された。

次に般若心經と大和帰神詞が奉誦され、火水之神事、及び御鈴神事、霊祭歌、綾瓊神歌を以て御霊の浄化浄霊、安鎮をご祈念申し上げた。

続いて、斎主教務総長、教母様、総裁家をはじめ、参列者が真心を込めて花玉串を御霊前に奉献申し上げ、昇霊の儀をもつて儀式は申し修められた。

結びに教務総長を中心に参列者一同は大きな輪となり、大和の庭が開かれ、「平和」や「深謝」についての大和の御教えを頂いて、尊き儀式は修められた。

教務総長御教話

皆さん大変ご苦勞様でした。教主様が教統を継承されて三十周年を記念して、出版された「こころ」という教書がございます。その中に「花のように生きる」という御教えがありますので拝読させて頂きます。心静かにお聞き下さい。

花のように生きる
絶対に貫くと決めた此の道です
試練が大きい程
私は強く生き抜きます
今が厳しい程
私は強く生き抜きます
障害の多い程
私は前に突き進みます
自分の道のために
生命の限り生きて生き抜きます

辛い時程
自分がよく見えます
苦しい時程
他人の優しさを感じます
道の険しい時程
尊い汗が流れます
今日も私は
自分の道を切り拓くために
一所懸命生きています
世の中には
本心に力のある人がいます
夢を大きく持つて
強く、強く生きていく人がいます
私は今
挫けそうな弱い心を励まして
必死で生きています。
花よ、何故にあなたは
変わることなく
咲けるのですか
人は生きることにするさを識り
安易な道を求めてしまうのに
花よ、何故にあなたは
変わることなく
生きていくのですか
私もあなたと同じように
生きてゆきたいのです
明るく、優しく、美しく
そして
変わることをない強さをもつて
本日のお盆花慰霊祭のために真心をこめたお花を奉製致しました。一つひとつのお花は霊化をさせて頂いております。そしてこの樹木は毎年伐り出して命を頂いて、思いを込めて一枚一枚装飾していくのです。
「花のように生きる」との御教えを通して、私たちは生かされておられ、辛いこと、悩み苦しむこと、色々ありますが、花のように美しく優しい気持ちをもつて強い気持ちをもつて、花は私たちに命の姿を表して下さっているのだと感じさせて頂きました。



斎主教務総長による十表祓

さて、八月十五日には終戦の日を迎えます。本日参列の皆さんは、戦争を全く体験したことのない、戦争を知らない世代なのです。今の日本、世界を取り巻く環境は本心に恐ろしいものです。戦争紛争、内戦で大勢の子供たちが死んでいきます。目の前で親が子が、兄弟が殺される。全てを破壊し殺し合います。ウクライナやガザ、さまざまな国や地域で侵略や内戦、内乱が起きています。食料もなく痩せこけて、餓死しています。子供が泣き叫んでいる姿が報道され続けています。この悲惨な世界を、私たちは殆ど何も感じておりません。遠い国のことと捉えているのでしょうか。同じ地球人、地球に住む人間として、恐ろしい、苦しい、悲しい世界があるということ、今日は少しでも感じながら学び合いをしたいと思います。

沖縄の終戦と云われる六月二十三日、広島島の原爆投下の日の八月六日、そして長崎への原爆投下が八月九日、人類史上初めて人間に向けて原爆が投下されました。原爆だけで三十万人近くの方が亡くなりました。沖縄では十万人余の民間人が鉄の

雨、ミサイルを浴びました。爆弾を落とされ全て焼き尽くされました。壕の中に避難したある母子がおりました。赤ん坊が泣くと壕に隠れていることが敵兵にばれてしまい、火炎放射器で皆殺しにされてしまうという状況下にあつて、母親は止む無く自分の胸に赤ん坊を押し付け、殺さざるを得なくなるといふ極限の状態に沖縄はありました。今の世界の戦争紛争もそういう状況になつていると思います。私は毎年沖縄に行かせて頂き慰霊をさせて頂いており、沖縄はあんなに美しい処ですが、島全体がお墓であり、蝶が飛ぶところに御霊がおりますというようなお話も耳にしました。

原爆の恐ろしさというものの、広島や長崎にも行かせて頂いて、今なお原爆の後遺症で苦しんでおられる方々が沢山いるのです。靖國で会おうと言って、日本の国のために、愛する人のために、散華されたご英霊たちのその思いを本日は皆さんと一緒に感じながら、私も祈らせて頂きました。私と皆さんの祈りはきつと届いたことと思います。死にたくないのに死んでいくのです。特攻隊の基地や知覧の特攻平和会館にも参りました。回天という魚雷での特攻は一たび出撃すれば死ぬしかないわけです。乗りこんだら最後、自分ではハッチを開けることが出来ないのです。深い海の底を敵に向かつて一撃必死です。このような方々が出撃前に、両親へ、兄弟へ、言葉を遺してくれています。

八十年前の出来事です。私たちが英霊や散華された方々のお蔭で平和な日本というものを享受させて頂いているのです。

同じ地球の中、同じ人間として争つて、殺し合っている世の中です。それに対して私たちは何が出来るか

ということですか。改めて皆さんと考えてみたいと思います。

大和帰神詞において「深謝奉仕の業に依るを覚りて」と唱えました。深謝とは、感謝とお詫びです。お詫びもするのです。皆さんが一番感じるべきは、食事をする時です。ただ食前の言葉を唱えるだけでなく、私共のために絶たれた命に対して、あなたの命を申し訳ないけれども頂きます。あなたの命を私の命として頑張りますという、その心が感謝とお詫びです。全て命を絶つて頂いているのです。その命に対して何も感じない、そういう人を横柄と云うのです。何時の間にか感謝とお詫びが無くなっているのです。殆どの人がそうでしょう。

開教神大國主大神様は「ものとはもてではない 大きな心ぞ 人として生きていく心 魂であるぞ」と開教神宣にて申されています。身の周りの道具も自分の為に頑張ってくれているのです。それに対してお詫びと感謝が無かったら人ではありません。人は万物の霊長です。それが何時の間にか横柄になつて、それが当たり前になつてしまふから、平和が崩れて戦争が起きて、憎しみ合つて殺し合つて、争つて、騙し合つて。つまり深謝が無いのです。私たち一人ひとりが稽古して、つくり上げていくことです。

大和の祈りと感謝と奉仕の生活を実践することで平和になります。祭儀の特別な日だけでなく、毎日祈つて祈りを形に伝えていくのです。おだいこくさまの教えは和であり、全てを許すということ、そして助けることです。それをしないと、平和にはならないのではないのでしょうか。今日は平和ということ、深謝の心についてお話をさせて頂きました。大変良い一日を有難うございました。

立教八十年に向けて大和の御教えを天地に満たしましょう

大和の信仰で笑顔のこぼれるような家庭を築きましょう

第一回 御命持神法教傳セミナー厳修

開教神大國主大神様の御神命を拝する、御命持(みこともち)としての神通力を身に修め「大和の大御名でこの世を清めなせ」との開教神宣の御教えに基づいて奉謝行をお仕え申し、自らの人生を感謝に明け暮れる弥栄の道を学び修める神法教傳の神の庭である。



御命持任叙之證を手に記念撮影

八月二十三日から二十四日の一夜二日に亘り、大國神社で『第一回御命持神法教傳セミナー』が開催された。

初之段として、冠の着け方をはじめ教主様より、直々に指導を賜る尊



教主様より二日間にわたり講義を賜る

生涯に亘り大和の大道を歩み続け、おられる教主様直々の先達による大和之教義解説、日常の修行の仕方、御神法、法術、日拜、御手神治(みてかじ)神法等、多岐に渡るご講義と神法実修を賜った。

くも誠に有り難い神法教傳会となりました。教務総長からは、円座となり神拝詞をもとに大和拝についての解釈や御剣守、鎮魂の鈴の実修等のご指導頂き、それぞれの食事の前には、感謝の心づくりが実践された。

翌二日は午前五時半より御本宮の清掃奉仕をさせて頂き、日供祭に



教主様より御手神治神法の実践指導を賜る



大國広場にて太陽日拝を修めた



教務総長による御剣守作法の実修

お仕え申し上げ、大國広場にて眩いばかりの太陽日拝を厳修、天津大霊の御力を授かった。

御魂結之神儀で
千古のやすらぎを あなたに。

十一尊神十種御子
御魂結之神儀

日時 令和七年
十月四日(土)
五日(日)

集合 午後四時十五分
斎行 午後四時四十五分
(申込みは九月三十日まで)

大和立教六十八周年
秋季立教例大祭
心願成就大火祭祈願祭

令和七年十一月三日(祝)
午前九時三十分

大國神社



神変神社にて神変大神様への感謝の祝詞が奏上された

大市神山出羽三山参詣登拝 神変大神様感謝奉告祭斎行

九月二日、午前七時より神変神社において、教務総長齋主のもと、本年の大國神社・出羽三山参詣登拝が無事に終えさせて頂いたことをご奉告申し上げる神変神社感謝奉告祭が斎行された。

大前に海川山野の種々の神饌が献えられ、修祓之儀の後、齋主教務総長により、大神様の御守護を得て、災難なく一同登拝をさせて頂いたことに感謝の祝詞が奏上された。

齋主玉串を奉りて拝礼をなし、結びに教務総長より御教話を頂いた。

教務総長御教話

修験道の開祖であらせられる役行者・神変大神様の御力を拝し奉り本年の大國神社・出羽三山参詣登拝が無事に申し修められましたことに心より感謝申し上げます。

神変大神様、前鬼・後鬼の神様の感謝の御祭を斎行させて頂いて、併せて月の御山の大神様、幽世の大神様の御力、お導きに感謝をさせて頂きました。

神変の大神様はこの大市の御山を導いた神様で御座います。

猿田彦大神様と共に大市の御山を開かれて、そして開祖様に力をお貸し下さると云われました。

開祖様に、「そなたは五尺にも満たぬ小さな体で、人からものを頼まれれば嫌とは言わぬ。その心、吾に叶うた。」と申され、さらに「吾をお祀りして祈る者は、月に一度は必ず見回りに巡る。」との尊い御教話を頂いております。

神変大神様の神変自在の神通力というものを、私たちはしっかりと受けて、それを世の中の多くの人に表していくことが大切です。

神変大神様の御力を信者さんだけではなく、数多の人たちに広めていくことが、これからの私たちの務めなのです。

神変大神様の尊き御霊である神変御下駄も、しっかりとお祀りしていくことが大切です。

人間というものは神様の子供ですから、神様のものです。私たちは、神様の申し子として、これからどのように自分の命を使わせて

頂くかです。神様に仕える人間として、どのように御祭神の御力を世の中の人たちに伝え、広める事が出来るのか。

神変様の御力を戴いて、皆が天地自在に動いて、声を掛けていくのです。



皆様の願いが込められし神変御下駄

神変様が金剛蔵王大権現のお姿を体現なされて、世の中に姿を表して下さいました。私たちも姿を表して世の人に須らく御力を表して助けていくことが大事なのではないでしょうか。

まだまだ私たちは神様の御姿となつて、世の人たちにお話ししたり、お救いをしたり、助けたりということが足りません。信者さんだけに向き合っていたのでは、世の中の人たちに広める事は難しいでしょう。立教七十周年の例大祭まで八百日を切りました。そういう中で私たちの神変大神様はともも嘆いておられます。

もっと勇気を自信をもつて、神々の御力を表すことです。大和の御教えを開くのです。本日はそのように神様からの御教えを拝しました。

神光殿月例祭事のご案内

毎月五日 神光龍神祭

神光龍神様は出雲の龍神であり、大和教団発祥の聖地をお授け下さり、大和の守護神と称えられております。土地の売買を始め万事の幸縁を結ぶ龍神様です。

毎月十一日 親神感謝祭・祖霊万霊祭

親神感謝祭は、神様に感謝の祈りを捧げ、信仰の神教縁を結び固める大切な一日です。また祖霊万霊祭は、ご先祖様を始め、縁ある御霊様、万物一切の御霊たちに感謝の心を捧げる祭事です。

毎月二十八日 六根修養会

修行には積極的に参行し、一ヶ月の罪穢れを祓い浄め、清々しい身と心となることです。

晩夏に思う

漸く猛暑も終わろうとしております。今年は本当に暑い夏でした。

夏といえば高校野球、甲子園大会が夏の風物詩として、私の中では一番に思い起こされます。あの球児の真剣な眼差し、はつらつとしたプレーを見てみると、自身の四十数年前、甲子園を目指して、汗と泥にまみれて白球を追いかけていたことが昨日のこの様に思い出されます。

今年も数々の名勝負が繰り広げられました。公立の星となりベスト4まで勝ち進んだ県立岐阜商業、生まれつき左手の指が欠損している横山温大選手の活躍には感動と勇気を頂きました。

日々熱戦が続く中、三回戦で地元宮城県代表の仙台育英学園高校との死闘を制した沖縄尚学高校が見事、初優勝に輝き、華やかに幕を閉じました。しかしその一方で広島県代表の広陵高校の大会途中での出場辞退は、大会に大きな影を落としたことも事実です。不祥

事に無関係な選手、ご家族の心中は如何ばかりかと案じるものであります。

残念ながらこうした不祥事は繰り返して起っており、その多くは所謂、強豪校で部員数も多く、且つ絶対的な上下関係、また全寮制であること等が共通してあります。更にそこには世の中と分離した独自のルールが存在し、ルールの是非よりも、ルールを守らせることが目的となつてしまい、その過程において悪しき構造が形成され、結果、不祥事発生の要因となつて参りました。

高校野球に限らず、世の中の多くの方々は今もこうした現代にそぐわぬ悪しき構造の中で苦しみ、疎外され、行き場を失つております。時代は猛スピードでアップグレードを繰り返しております。皆さんもこの機に自身の家庭や職場、学校の環境をしっかりと見つめ直し正すべきは正し、大和の信仰生活を基として、明るく豊かな日々を過ごして頂ければと願うもので

す。(平松千明)

10月行事予定表

10月1日 朔日火祥神事
10月4日 御魂結神儀(5日)
10月5日 神光龍神祭
身延山久遠寺
参拝の旅(6日)

10月11日 親神感謝祭・祖霊万霊祭
10月15日 月次祭・五講祭
10月25日 開祖祭
10月26日 秋の清掃奉仕
10月28日 六根修養会

11月行事予定表

11月1日 朔日火祥神事
11月2日 秋季立教例大祭前日祭
11月3日 秋季立教例大祭
11月5日 神光龍神祭
11月11日 親神感謝祭・祖霊万霊祭
11月15日 月次祭・五講祭
11月22日 十種大行(23日)
11月25日 開祖祭
11月28日 一年の御神託祭
六根修養会



大和教団ホームページ URL
<https://taiwakyodan.org/top/>